

植物園一人一花運動拠点機能強化に向けた基本的な考え方



令和6年9月

福岡市植物園

目次

1. 基本的な考え方の前提	1
(1) 背景と目的	1
(2) 位置づけ	3
(3) 植物園の概況	5
(4) 植物園内のエリア毎の現況と問題点	10
2. 基本的な考え方の方向性	20
(1) 動植物園再生基本計画の修正に向けた既往検討の整理	20
①平成28年度 植物園再生基本計画の基本的考え方	20
②平成28年度 植物園再整備基本計画の検討	21
③令和4年度 植物園風景演出改善の検討	22
④令和4年度 動植物園経営戦略の検討	24
(2) 一人一花運動の拠点としての方向性	25
(3) 動植物園再生事業の修正に向けた検討の方向性	29
3. 整備方針	32
(1) 空間構成の考え方	32
(2) エリア構成	33
(3) 動線計画	35
(4) 景観構成	37
(5) 整備イメージ	39
(6) 整備スケジュール	43
4. 管理運営計画	44
(1) 管理運営の考え方	44

1. 基本的な考え方の前提

(1) 背景と目的

○背景

福岡市動植物園は、昭和 28 年に動物園エリア、昭和 55 年に植物園エリアが開園後、長年にわたり市民に親しまれてきたが、動物の飼育環境や施設利用上の課題が生じていることを受けて、平成 18 年に「福岡市動植物園再生基本計画」を策定し、再整備を進めてきたところである。

「福岡市動植物園再生基本計画」においては、下記の 3 つの基本的方向性を定めており、動植物園の一体化を図りつつ、施設のリニューアルを含む機能の拡充・更新を行うこととしている。

<「福岡市動植物園再生基本計画」 目指すべき 3 つの基本的な方向性>

- ・ **Enjoyment** 驚き、楽しみ、学び、活動できる動植物園
(驚き感動をもたらす展示運営、環境教育)
- ・ **Originality** 動物と植物が一体となった空間づくりと運営
(動植物園の融合、動植物の本来あるべき姿、生態的つながりの表現)
- ・ **Locality** 福岡市の地域性や南公園の敷地特性を生かしたテーマ設定
(アジアを意識したテーマ設定、高低差のある地形など福岡市らしさを活かす)

一方で、福岡市では平成 30 年より一人一花運動を展開しており、植物園はその拠点に位置づけられ、一人一花運動が目指す「花による共創のまちづくり」をさらに広げ定着させるために、花・緑分野に限らず様々な取り組みにおいて、花がツールとして定着する流れを継続的に作り出すために、下記の 4 つの機能強化に重点的に取り組んでいる。

<植物園が一人一花運動の拠点として強化する 4 つの機能>

- ・ 一人一花運動を始めたくなるきっかけづくり
- ・ 様々な主体が交流できる共創の場づくり
- ・ 一人一花運動を担うガーデナーとしての人材育成や活躍の場づくり
- ・ 誰もが訪れたくなるようなワクワク感の向上

○目的

本書で取りまとめた基本的な考え方は、一人一花運動の拠点機能強化と合わせて、環境教育や生物多様性への取り組み、市民憩いの場の創出など「福岡市動植物園再生基本計画」を推進するものであり、設定した対象エリアについて、ハード・ソフトの両面から基本となるアイデアを提示する。

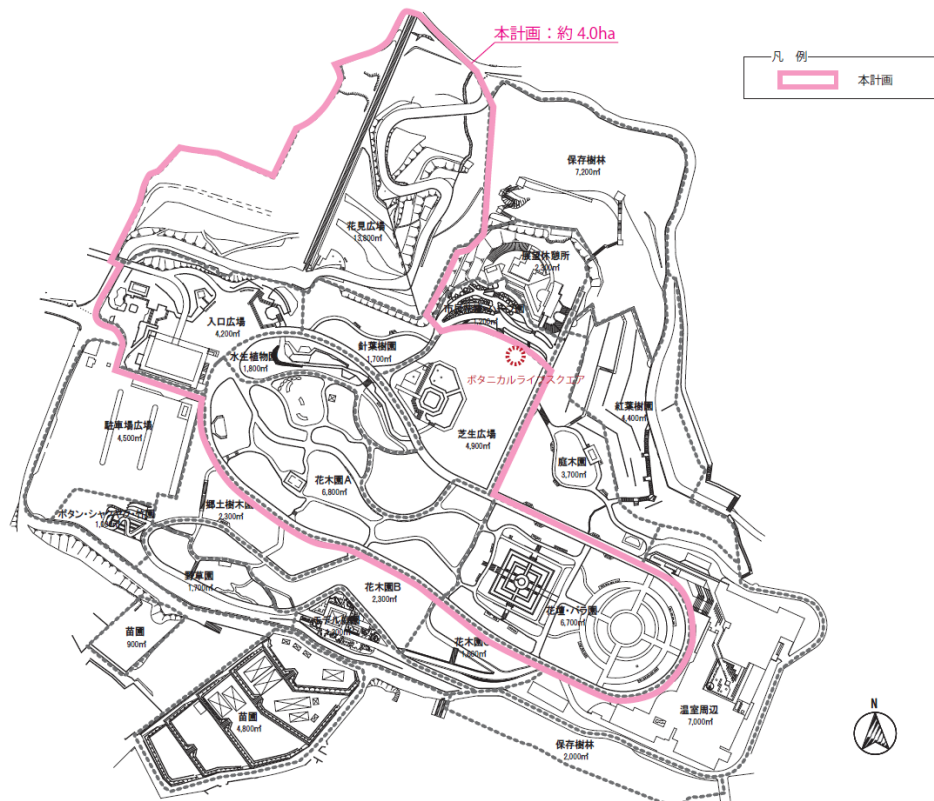
また、植物園全体の再整備については、「福岡市動植物園再生基本計画」の修正に合わせて改めて整理する。

○福岡市植物園の位置



○対象範囲（植物園有料区域の一部と無料区域の一部）

本計画は植物園に重点を置きつつ、対象地を南公園全体に拡大し、改善策を検討する。



(2) 位置づけ

植物園のリニューアルは、本来、「動植物園再生基本計画」に沿って進めるべきものであるが、令和4年に動植物園再生事業の第1期整備（H18～R4）が完了し、現在、第2期整備に向けた計画の修正を進めているところである（令和7年度策定予定）。

このため、計画の修正に先立ち、一人一花運動の拠点機能強化を先導的に進めるエリアに限定して、基本的な考え方を整理したものである。なお、最終的な植物園全体の再整備計画については、「動植物園再生基本計画」の修正において改めて整理するものとする。

① 上位関連計画の経緯と概要

上位計画

1. 福岡市基本構想・第9次基本計画（2012(平成24)年12月）

「福岡市基本構想」で都市像を掲げ、その実現に向けた方向性を示した計画が「第9次基本計画」である。生活の質の向上と都市の成長を目指し、さまざまな支え合いとつながりの場づくりや持続可能な都市づくりを目標としている。そのため行政と市民との共働を基本方針とし、人材の多様性や交流・対話・連携を推進している。

2. 福岡市都市計画マスタープラン（2014(平成26)年5月改定）

西公園・舞鶴公園・大濠公園・南公園などの大規模公園から鴻巣山までを一連のみどり豊かな中央緑地帯とし、福岡城や鴻臚館跡などの歴史遺産やアクロス福岡などの芸術・文化施設と併せて、市民の交流・憩いの場として再整備する。また施設の老朽化や市民のニーズに対応した再整備も進められている。

3. 福岡市新・緑の基本計画（2009(平成21)年5月）

動植物園を、障がい者や高齢者、幼児を同伴する家族連れ等が気軽に訪れ、レクリエーションから学習・研究まで花や緑に関する幅広いニーズに応えられるように、施設・体制の充実を図るとされている。また、市民参加の街路花壇などの市民参加型緑化事業や緑教育、緑のコミュニケーション事業も進めている。

動植物園再生事業

- ・ H16 動植物園再生基本構想
- ・ H18 動植物園再生基本計画
- ・ H19～R4 第1期整備
- ・ R6～動植物園再生基本計画の修正

一人一花運動

- ・ H30 一人一花運動スタート
（植物園を拠点として位置づけ）
- ・ R4 ボタニカルライフスクエアオープン
（一人一花運動拠点施設）
- ・ R6～植物園リニューアル（先行整備）

本計画

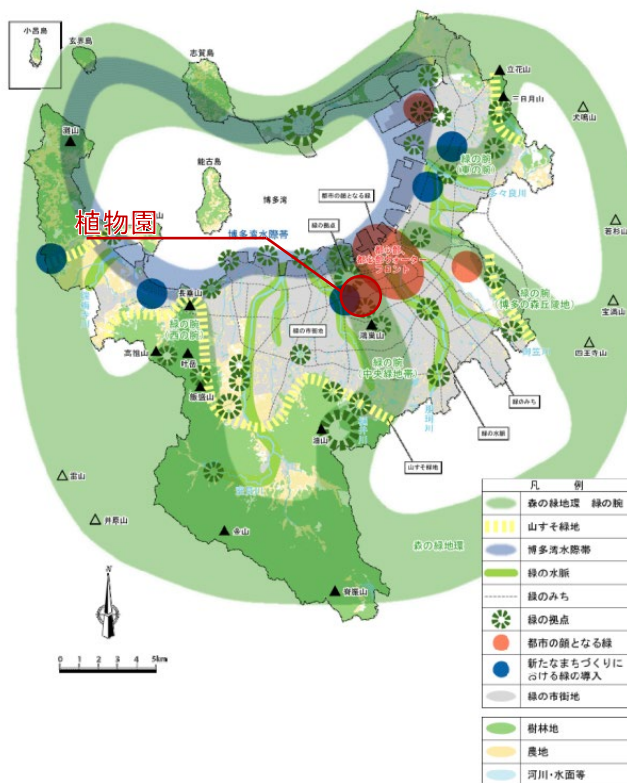
植物園一人一花運動拠点機能強化に向けた基本的な考え方

動植物園再生基本計画（修正版）

② 広域的な視点からみた植物園のみどりの位置づけ

1. 福岡市の緑の骨格「中央緑地帯」の中核

- ・福岡市の南側周縁部は背振山系に連なる山地に囲まれ、北側には博多湾が水域を形成しており、市の全域を豊かな自然が取り囲んでいる。
- ・特に油山から博多湾に向かって伸びる「中央緑地帯」が市街地の中央を貫いており、「都市の肺」として大きな役割を果たしている。
- ・植物園はこの「中央緑地帯」の自然と市民生活とをつなぐ中核的な存在として位置づけられる。



2. 生物多様性保全への取り組みの中核

- ・動植物園を含む南公園一帯では、市民の生活空間に隣接して多様な自然環境が残っている福岡市の特徴や、探鳥会や自然観察会など、市民が生物多様性を保全するための取り組みを行っている。
- ・植物園は、調査研究活動や写真展示などを通じて、生物多様性に対する市民の関心を高め、自然環境の保全活動を推進する中核的な存在として位置づけられる。

3. 「福岡らしさ」を生かしたまちづくりの中核

- ・大濠公園、南公園（動植物園含む）、西公園、護国神社などが市街地に残された緑の拠点となっており、地域住民が積極的に維持管理に取り組むことを強化されている。
- ・植物園は、緑のまちづくりを促進するコミュニティ形成の取り組みの場・情報を提供し、花と緑のまちづくりに自主的に取り組んでいる団体への技術支援を行っている。
- ・緑に親しみ緑を考える機会として、四季折々の樹木や花の観察会等のイベントを定期的で開催している。市民の緑への関心を高める「福岡らしさ」を生かした緑のまちづくりの中核として位置づけられている。



出典：福岡市『福岡市 新・緑の基本計画』

2009(平成 21)年 5 月に一部加筆

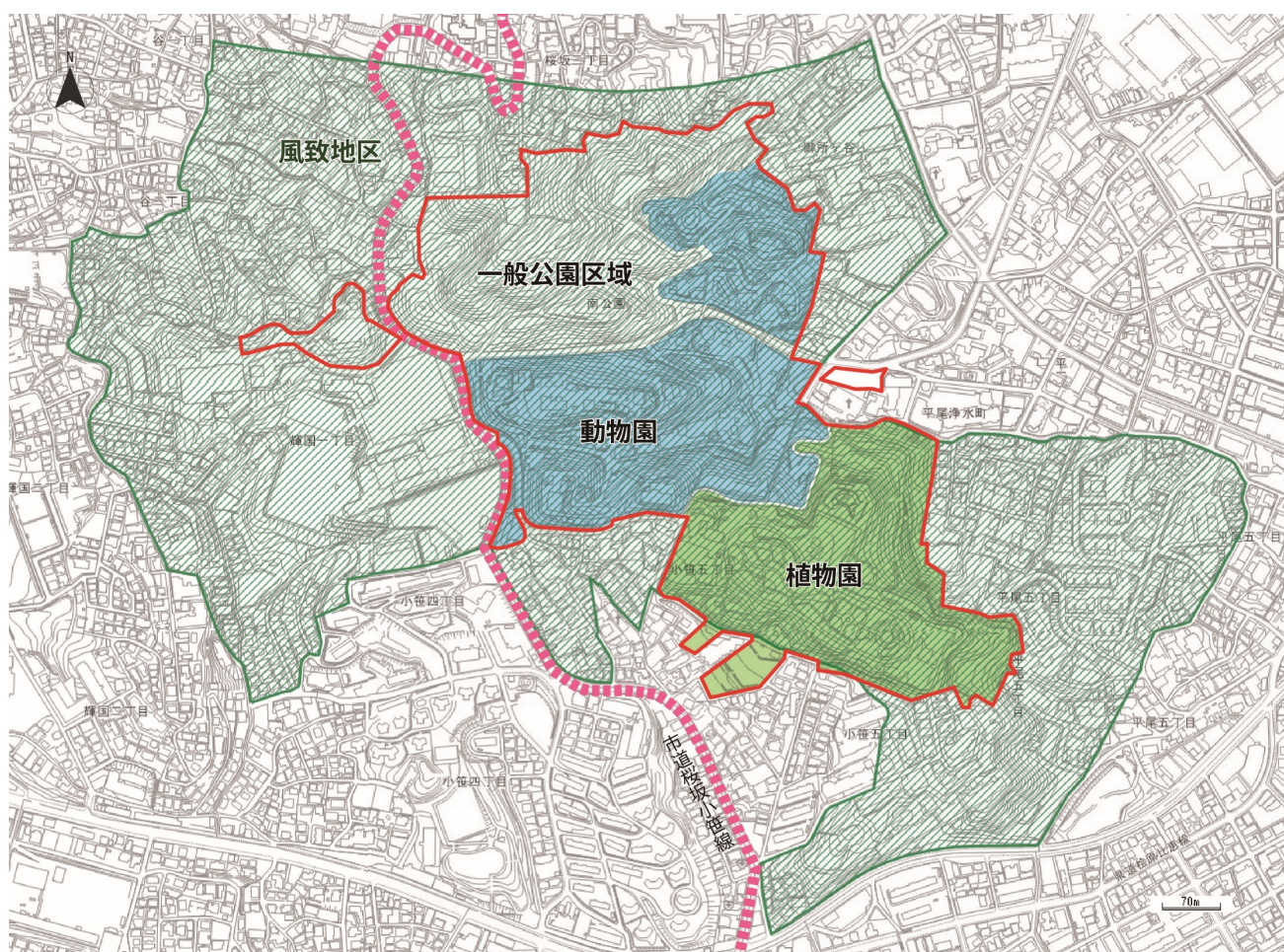
(3) 植物園の概況

① 植物園周辺エリアの現況

植物園を含む南公園は、福岡市中央区の丘陵地に位置しており、南公園は動植物園の有料区域とその他の一般公園区域に分かれている。昔、ここには平尾浄水場があったため、薬院から伸びる道路「浄水通り」や南公園に接する住所「浄水通」、「平尾浄水町」などの名称にその名残が残っている。

植物園周辺エリア一体は風致地区の南公園地区として指定されており、常緑樹や落葉樹が自生する緑深い樹林を形成しているエリアである。その風致を維持するため、建築物の建築や樹木の伐採、屋外広告物などに一定の制限が加えられている。

動植物園の西側には福岡市道桜坂小笹線が南北に通っており、動植物園へアクセスする動線となっている。沿道には商業施設やサービス施設、中高層住宅などが連続している。



② 植物園の現況

■開園当初の整備方針及び沿革

- ・市民の利用を対象とした都市緑化植物園とし、中心となる施設として、緑の相談所、見本園を整備する。
- ・市街地に隣接する立地条件から、市民の日常的なレクリエーション機能の一部を担い、総合公園として動物園と一体的利用を考慮下計画とする。
- ・南公園内に残存する照葉樹林は、本市の緑の骨格を形成する中央緑地帯の貴重な樹林であるため、できるだけ保存する。

■沿革

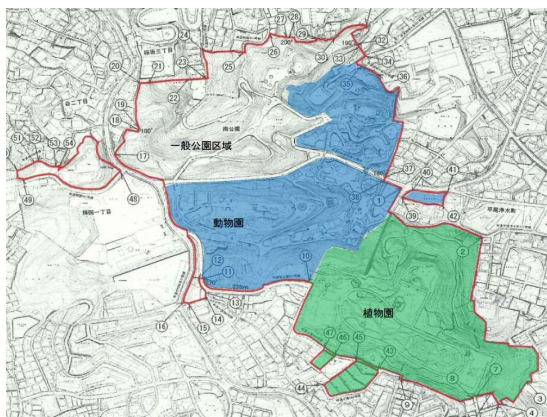
昭和 55 年（1980 年）	植物園開園
平成 10 年（1998 年）	ラン温室増築
平成 21 年（2009 年）	バラ園拡張

■役割

植物の展示及び緑化の普及啓発とレクリエーション機能を備え、市民の憩いの場として、楽しみながら緑を育てることを学ぶことができる都市緑化植物園である。



■敷地面積



南公園全体	約 28ha
・植物園区域	約 8.5ha
・動物園区域	約 12.0ha
・一般公園区域	約 7.5ha

■展示植物数

	開園当初（S55/6/1）	現在（R6）
野外	700 種 100,000 本	1,400 種 160,000 本
温室	600 種 21,000 本	1,240 種 29,400 本
合計	1,300 種 121,000 本	2,640 種 189,400 本

■主要施設

- ・緑の情報館（S54 年完成）
- ・温室（S55 年完成、H10 年増築、H22 年大規模修繕）
- ・展望休憩所（S57 年完成）
- ・駐車場（R3,4 供用開始、普通車 240 台）
- ・水修景施設（壁泉、流れ、噴水）
- ・記念塔（旧平尾浄水場建物）
- ・便所（RC 造 園内 4 ヶ所 園外 3 ヶ所）
- ・四阿（木造 5 棟）
- ・苗圃管理棟（軽 S 造 1 棟）

■入園者数

・平成 30 年度	82 万人	コロナ禍による 入園者数の減少
・令和元年度	81 万人	
・令和 2 年度	61 万人	
・令和 3 年度	59 万人	
・令和 4 年度	77 万人	
・令和 5 年度	76 万人	

■ボランティア

- ・ガイドボランティア 24 人
 - ・ハーブボランティア 13 人
 - ・セントポーリアボランティア 4 人
 - ・ハンギングバスケットボランティア 23 人
 - ・野鳥観察ボランティア 6 人
 - ・ロープワークボランティア 17 人
 - ・里山活動ボランティア① 18 人
 - ・里山活動ボランティア② 17 人
 - ・養蜂活動ボランティア 15 人
 - ・宿根草ボランティア 29 人
 - ・魅力発信ボランティア 9 人
- 計：175 人

■催事等の実績（R5）

- ・緑の相談等 3,492 件
- ・イベント 279 回
- ・展示会 39 回
- ・講座・教室(植物園主体) 77 回
- ・講座・教室(その他) 22 回
- ・観察会 121 回
- ・広報(ホームページ、SNS、市政だより、記者発表ほか)

■環境保全事業

- ・ハカタユリの継承

■植物園友の会

植物園を植物愛好者の集いの場、また都市緑化に関する知識、技術の学びの場として活用していただき、市民参加型の植物園運営を目指して、平成 18 年度に「植物友の会」制度を発足し、令和 3 年度に、「植物園一人一花友の会」へ名称変更した。

※R5 年度会員数 個人会員 558 人、法人会員 5 社

■特性

- ・敷地が高台にあるため眺望が良い
- ・同じ敷地内に動物園が併設されている
- ・植物園から入園してもそのまま動物園へ行く人が多く、植物園の奥に向かうだけの魅力を持たせられていない
- ・植物園から動物園へ向かう園路は樹木の密度が高いほか、下枝も多く、常緑樹が多いことから常に薄暗い

③ 展示概要（野外見本園・温室）

○野外見本園展示概要

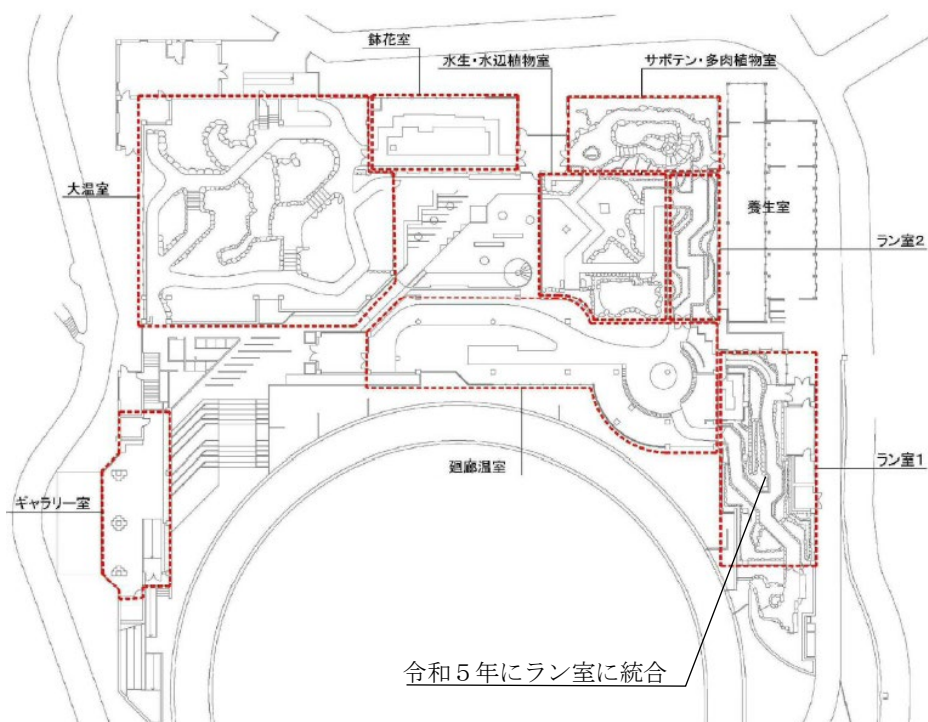


【野外】

エリア名	面積	内容
入口広場（情報館）	4200m ²	クロガネモチ、クスノキ、フヨウ、サザンカ、セントポーリア等
針葉樹園	1700m ²	メタセコイア、イチイモドキ、カウリマツ、ドイツトウヒ、ラカンマキ、コウヤマキ、ナギ、クリスマスローズ等、宿根草花壇（40 m ² ）、ステップアップ花壇（R5〜）
水生植物園	1800m ²	入口広場の壁泉から約100mの流れ沿いに水生植物を植栽 ミズキ、カツラ、ウンリウウヤナギ、サクラソウ、ホタルブクロ、アヤメ、カキツバタ、ハナショウブ、コガマ、ハンゲショウ
花木園 A	6800m ²	ツツジ類：14 種（園芸種 クルメ 28、ヒラド 18、サツキ 37）、サクラ類：43 種 70 本（有料区域内） 花壇 223m ² 、アジサイ類：30 種 ハンカチノキ、ヒトツバタゴ、スモークツリー、セイヨウシナノキ
芝生広場	4900m ²	ユリノキ、カンレンボク、アメリカヤマボウシ、ケヤキ、クスノキ等
市民花壇・ハーブ園	645m ²	ハーブ類：89 種、市民花壇 123m ²
展示休憩所	2300m ²	フジ、ハマボウ、ノウゼンカズラ、アコウ
庭木園	3700m ²	イヌマキ、クロマツ、ヤマモモ、イロハモミジ、ゴヨウマツ等
紅葉樹園	4400m ²	カエデ類、メグスリノキ、ハナノキ、ナンキンハゼ、スイセン等
温室周辺	7000m ²	ネムノキ、ジャカラнда、リュウゼツラン類、キウイフルーツ
花壇・バラ園	6700m ²	バラ：280 種 1350 本 893m ² 、原種、オールドローズ、モダンローズ等配植
	花壇 160m ²	5〜7 月：マリーゴールド、ベゴニア、アゲラタム、バーベナ、サンパチェンス 7〜9 月：コリウス、ニチニチソウ、ペンタス、メランボジューム 9〜12 月：マリーゴールド、アキランサス、センニチコウ、ベゴニア 12〜5 月：ポピー、ダイアンサス、クロッカス、パンジー
香りの路	400m	花の香：キンモクセイ、ジンチョウゲ、クチナシ等 43 種 1641 本 葉の香：サンショウ、ゲッケイジュ、ニッケイ等 13 種 24 本
郷土樹木園	2300m ²	ヤブツバキ、スダジイ、タブノキ、ヤブニッケイ、アラカシ等
花木園 B	2300m ²	ウメ類：11 種 16 本、ツバキ類：34 種 タニウツギ、ニシキウツギ、シャシャンボ、ハギ等
花木園 C	1600m ²	アジサイ類：9 種 50 本（不明種 250 本） バクチノキ、セイヨウニンジンボク、ニシキギ、ムクロジ等

モデル庭園	1300m2	(社)福岡市造園建設業協会の協力により、11区画の庭園を展示
野草園	1700m2	スイセン、ギボウシ、カンザキアヤメ、シャガ等 ダンギク、オキナグサ、ヤブカンゾウ、オミナエシ、フジバカマ等
ボタン・ シャクヤク・竹園	1000m2	ボタン：21種44株100m2、シャクヤク：38種102株95m2、竹類：9種
花見広場	13800m	ソメイヨシノ（開花標準木）、イロハモミジ
苗圃	5700m2	育苗温室、バラ圃場118m2、委託業者詰所1棟、資材置き場棟

○温室展示概要



【温室】

部屋名	面積	主な植物
廻廊温室	473m2	熱帯・亜熱帯の花木を展示 ブーゲンビレア、ハイビスカス、ブルメリア、カエンカズラ、トケイソウ等
ラン室	106m2	アジア太平洋地域の原種ラン、園芸種のランを展示 カトレア、ファレノプシス、パフィオペディル、シンビジウム、デンドロビウム、バンダ
水生・水辺植物室	253m2	熱帯・亜熱帯の水中や水辺の植物を展示 オオオニバス、熱帯スイレン、オヒルギ、ヘゴ、ガジュマル、クリヌム・アマビレ、シベラス、ストレリチア・ニコライ等
サボテン・多肉植物室	162m2	サボテンや多肉植物等を展示 キンシャチ、ハナキリン、亜阿相界、奇想天外、ドラゴンフルーツ、ハオルチア、ガステリア、パキポディウム類 等 【屋外】リュウゼツラン
鉢花室	163m2	植替え植物を展示 ベゴニア 250鉢、フクシア 150鉢
大温室	737m2	熱帯雨林の植物と亜熱帯果樹を展示 ボーモンティア・グランディフローラ、ベニヒモノキ、サガリバナ、ヘリコニア類、ヤシ類、サキシマスオウノキ、タコノキ、バナナ類、パパイヤ、マンゴー、パイナップル、コーヒーノキ、グアバ、パラミツ類、フトモモ 等
ギャラリー室	139m2	植物愛好団体等による展示会を開催 休憩室として利用
中庭	215m2	スイレン、花壇 8m2
養生室	375m2	原種ラン等育成、展示用植物の養生等 クジャクサボテン類（月下美人）

(4) 植物園内のエリア毎の現況と問題点

○入口広場

緑の情報館を含む入園口周辺の、来園者が入園後に最初に訪れるエリアである。

入園口に併設されている緑の情報館は、1階が緑の相談所及び売店(「おやすみ山」)、2階が(公財)福岡市緑のまちづくり協会の事務所となっているが、エントランスとしてのおもてなし機能が弱く、今後、建て替えを含め検討が必要である。

入園口を抜けた先は、ベンチや園内マップが配された滞留空間があり、繁忙期にはキッチンカー等も展開される。

ガイドボランティアの拠点であるログハウスや、平尾浄水場の遺構(配水池点検用通路の入口)があり、連絡通路を通して動物園に向かうこともできるが、主園路が分かりづらく植物園への誘導に課題がある。



植物園エントランス



植物園内から見た緑の情報館の外観



植物園の入園口



入口広場



ログハウス
(ガイドボランティア詰め所)



平尾浄水場遺構
10



水景施設(壁泉)

○花木園A

入口広場から見て正面には、コスモスやヒマワリなど、季節ごとに植え替えを行う花壇があり、フォトスポットとなっている。

その奥には、春には一面のツツジの鮮やかな風景が広がり、南側の園路沿いには、早咲きから遅咲きまで多様なサクラの品種による開花リレーが楽しめるエリアとなっているが、春以外の季節の見どころが少ない。



フォトスポットとなるコスモス花壇（10月）



一面のツツジ

○水生植物園

入口から芝生広場に至るメイン動線沿いに位置し、主園路から水生植物が観察できるが、距離があるため観察しづらい。

壁泉から流れを通り、芝生広場の池まで、井水が循環しているが、近年、漏水やポンプ等施設の老朽化が進んでいる。

芝生広場の池は、ボタニカルライフスクエアを含めた一体的な利用を検討するため、現在、試行的に、人工芝によるデッキを設置し、吹奏楽のコンサートや夜のイベント等で活用している。



主園路から水生植物園を望む



人工芝デッキの利用状況

○Bスク&芝生広場

芝生広場は、動植物園におけるまとまった平場の空間として、遠足や昼食休憩の利用が多い。

さらに、8～9月の夜の動植物園や10月の一人一花サミットの会場としても活用されている。

令和5年3月に、一人一花運動の拠点施設として、ボタニカルライフスクエア（以下「Bスク」という）がオープンした。Bスクは、「360° 植物に囲まれたロケーションを活かして、緑のある空間や生活の良さを感じてもらい、花や緑のあるライフスタイルの発見、発想、発信を生み出すことに活用できる施設」であり、花や緑に関する講座やイベントの開催に加え、これまで植物園を訪れたことがない多様な人々が利用する機会が増え、幅広い活用による新たな交流や発信が行われている。

芝生広場の大池の中央には、一人一花アンバサダーである石原和幸氏の監修により和洋のテイストを取り入れた庭園である「一人一花ガーデンラボ」があり、庭園のメンテナンスを通じた人材育成の取り組みとして、「ミニチュアガーデン講座」が開催されている。



Bスクから芝生広場を望む



芝生広場からBスクを望む



遠足のお昼休憩にも活用される芝生広場



Bスクを活用したイベントの様子

○針葉樹園

針葉樹園には、メタセコイアを中心とした高木が大きく育っており、主園路沿いにある花壇を活用して、令和4年度より宿根草を活用した人材育成「ねづくプロジェクト」を展開している。

令和5年度には、花壇エリアを一部改修し、一人一花サミットに合わせて、市内の3つの花壇コンテストの入賞者が参加した、一人一花フラワーガーデンチャンピオンシップが開催された。

その後、当該エリアでは、チャンピオンシップの参加者や「ミニチュアガーデン講座」の終了生を対象として一人一花アンバサダーのアドバイスを受けながら、年間を通じて花壇管理を行い、ガーデン技術の向上を図る「ステップアップ講座」が開催されている。



針葉樹園全景



針葉樹園内を散策できる小園路



人材育成プロジェクトでの宿根草花壇管理活動



主園路沿いに設置されたステップアップ花壇

○花壇・バラ園

円形花壇の周りにバラが植栽されたエリアと沈床バラ園エリアがあり、四季ごとの花壇の植替えや、春と秋のバラ祭りなど、植物園の見どころの一つとなっている。

一方で、バラを楽しめる時期が春と秋に限られていることや、バラの病気や老木化、樹形や品種の偏り、大株化による管理性の悪化など問題を抱えていることに加え、植物園の目玉施設でありながら奥に位置しているため、バラ園の存在があまり知られていない状況である。



バラ園を望むことができるテラス



円形花壇



満開の時期（5月）のようす



開花時期以外（4月）のようす

○花見広場

花見広場は植物園と動物園の間にある無料区域であり、動物園入口側から、250 段ほどの直線の階段やスロープを登り植物園にアクセスすることができる。

エリア内にはソメイヨシノを中心としたサクラやツツジがあり、春はお花見のスポットとなっているが、近年、サクラの老木化が進み、倒木の恐れのある一部のサクラについては撤去を行っている。

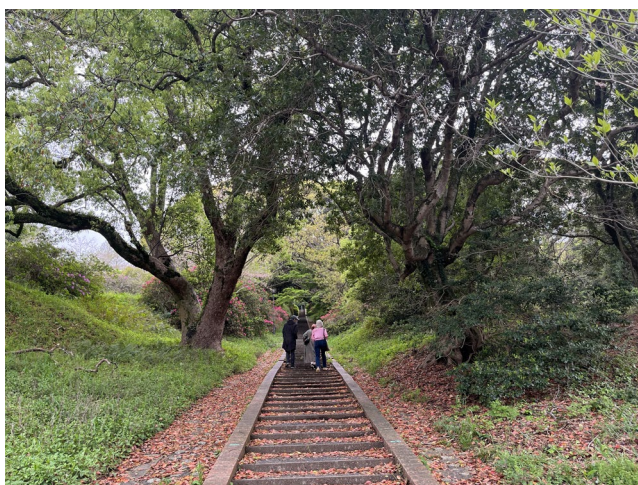
階段については、平尾浄水場時代に整備されたもので、踊り場や手すりがないなど、福祉の基準上の問題がある。



動物園側から植物園側へのアクセス階段



植物園側の休憩スペース（縁台、健康遊具）



踊り場などバリアフリーへの対応が必要な階段



満開のサクラ

○温室について

市政 90 周年記念事業として建築家・瀧光夫氏により設計され、昭和 55 年 6 月、本園の開園とともに一般に公開された。

広さ約 2,800m² の温室は、8 つの部屋に分けられており、熱帯の植物を中心に観察することができるが、2 階部分の見どころが少ない、展示植物数を確保できないことから 2 つあるラン室の一つを閉鎖しているなど、十分な活用が出来ていない状況である。

また、築 44 年が過ぎており、施設の老朽化による雨漏りや、自動開閉窓の故障など様々な劣化が進んでいることを加え、ベンチ等の休憩施設が少ないなど利用上の問題も抱えている。



温室の外観



巨大化し密生している温室内の樹木



回廊温室



サボテン・多肉植物室

○展望休憩所について

温室と同じく建築家・瀧光夫氏による設計の展望休憩所。標高 73mの展望台からは、天神や博多駅方面まで一望できる。

1階にはカフェ、中庭にはこどもの遊び場「展望台キッズテラス」がある。

展望台に登るには階段しかないため、足が不自由な方や高齢者、車いす利用者は屋上まで登ることが困難である。また、周囲の樹木が生い茂り、展望台や展望台カフェからの眺望が十分に確保されていない。



芝生広場から展望台全景を望む



展望台から市内への眺望



展望休憩所 展望台キッズテラス



展望台へのアクセスは階段のみ

○サインについて

園内には、総合案内サインや誘導サイン、記名サインに加え、植物についての学習サインが各所に設置されている。一方で、来園者が求める情報（順路や見どころへと案内するサイン）の機能が不十分である。また、植物銘板については、黒を基調とし、地味で堅苦しいデザインであったことから、カラフルでワクワク楽しめるデザインを検討し、令和6年度にリニューアル予定である。



入口広場の総合案内サイン



視覚障害者へ香りのする植物を案内する点字サイン



各エリアや施設へと誘導するサイン



動物園へと案内するサイン



展示している植物についての学習サイン



植物園南側の魅力を伝える案内サイン

○バックヤードについて

屋外、温室共に他園に比べ規模が小さく、十分な育苗スペースが確保できていない。



園内バックヤード



屋外バックヤード

2. 基本的な考え方の方向性

(1) 動植物園再生基本計画の修正に向けた既往検討の整理

①「平成18年度 動植物園再生基本計画」の基本的考え方

○基本的方向性として、次の3つを提示している

驚き、楽しみ、
学び、活動できる
動植物園

楽しさ・よろこび創出のために
～Enjoyment～

動物と植物が
一体となった
空間づくりと運営

個性創出のために
～Originality～

福岡の地域性や
南公園の敷地特性を
活かしたテーマ設定

福岡らしさ創出のために
～Locality～

○植物園エリアについては下記の整備項目を実施することとしている

バードガーデン

- ・植物園の景観と融合する水鳥の池を設ける。日本固有の植物と鳥類との関わりを展示する

緑の情報館

- ・緑に関する情報展示やイベントスペースの拡充を図る

ふれあいの森

- ・既存の樹林を活用し、森の中で自然とのふれあいや遊びを楽しめる場を整備する

温室（リニューアル）

- ・温室展示の魅力向上に向けて、現施設の改修を行う。
- ・改修にあたっては、植物展示に支障を与えない範囲で、動物展示（ハチドリ、熱帯魚、昆虫など）との融合を図る

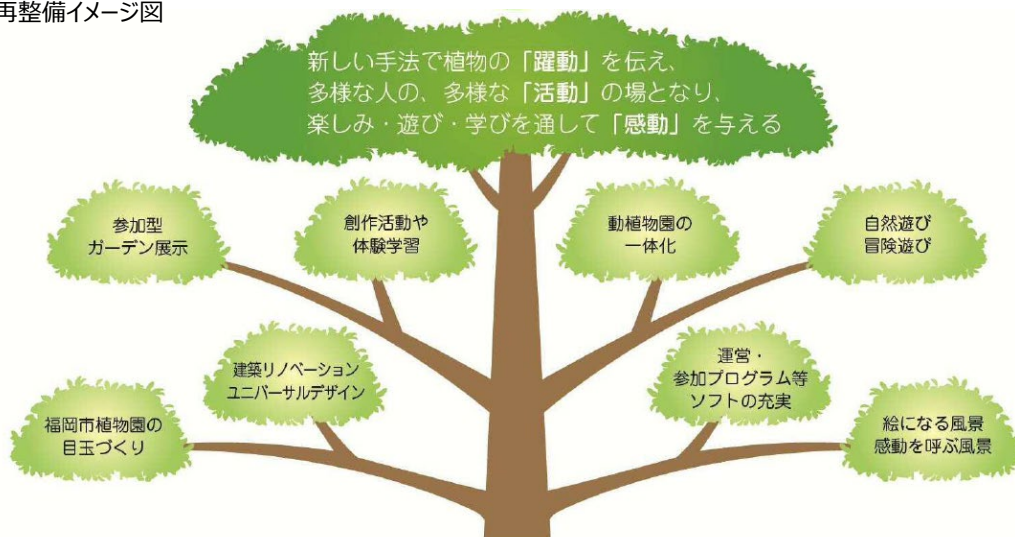
②平成28年度 植物園再整備基本計画の検討

「動植物園再生基本計画」は動物園の再生を中心に検討されており、動物園機能の植物園への部分的な拡張や機能の融合などの可能性を検討したものであり、植物園の再整備内容については、検討が限定的な計画である。

このため、平成28年に植物園としての再整備の方向性を明確にするため「植物園再整備基本計画」を作成した。作成にあたっては、学識経験者等による「福岡市植物園のこれからのあり方についての懇話会」を開催し、植物園再整備の「目指すべき方向性」「具体的なアイデア」等について意見交換し、計画の参考とした。



再整備イメージ図



③令和4年度 植物園風景演出改善策の検討

平成30年に一人一花運動が始動し、植物園は一人一花運動の拠点としての機能強化を図っていくため、ボタニカルライフスクエアの建設など一部エリアの整備を先導的に進めているところである。

このため、H28年度からの状況の変化を踏まえながら、植物園としての目指すべき方向性を見直しや具体的な風景演出改善策の検討を行った。検討にあたっては、有識者等を交えたウォークスルーを行い意見聴取した。

第1回ウォークスルー（範囲：植物園有料区域）

■展示のストーリーと動線を併せて再構築

- ・ 利用者動線と管理者動線、メイン動線とサブ動線などの分け方でやっていくので、**展示のストーリーやテーマが吹っ飛んでしまいがち**
- ・ 展示のストーリーは、南公園全体でゲートの外から始まっているべき

■視点場を何箇所か設定して集中的に演出

- ・ 建築とのバランスや東屋の配置やデザインなど、**ここが一つの見せ場だという場所を何箇所か設定した中で、そこからの見え方として収まりがよい、などの視点をもった方が分かりやすいのではないか**

■座る場所、佇む場所、ゆっくり過ごせる場所

- ・ 時間を取って植物を愛でたりする場所
- ・ 可動式の椅子で木陰にテラス状のものがたくさんあったらどうか

■緑に関する3次元を園内で収集し、今後の計画等に活用

- ・ 植物園の取り組みが「緑の基本計画」のつくり方も変えるかもしれない
- ・ 今までは（市民一人当たりの緑地面積など）2次元の言い方だったが、先進技術も発達しているので、多角的なデータから緑のことを見ていく3次元の活用可能性が広がる

■多様なサービスメニューの導入

- ・ ここが使える、など特に海外の植物園などはファッションショーなどを行っており、**お金を取る＝サービスの多様化**
- ・ 公民連携・パークPFIのことも含めて

■参加型植物園としてのバックヤードの充実化

- ・ **作業風景や道具小屋も展示対象の一つとする**

■過密の場所、過疎の場所の早期改善

- ・ 動物園と植物園のつながりの空間等、すぐにでも改善したほうが良い場所がある。

第2回ウォークスルー（範囲：南公園（無料区域）を含む植物園全体）

■植物園の機能性が見えにくい

- ・ 一番のメインは何を見せようとしているのか、明確にする必要がある
- ・ 種の保全、デザイン性、参加型などのすべて追っていきたいが、一方でテーマを絞って特徴を出していくことが重要ではないか
- ・ テーマ、ストーリーを作り、機能に沿って具体的な環境が備わっていくとファンが増えていき、新たな発見が生まれてくる

■公共アクセスの重要性

- ・ 駅からのアクセスは勿論、駐車場、バスの公共アクセスの動線についても重要である
- ・ また、新たにエレベーター、スロープカーなどの施設を含めてのアクセスや移動も重視していく

■既存樹木の管理

- ・ クスノキ、スダジイが蔓延りすぎる樹木になってしまっている
- ・ コナラ、タブ、ヤマモモは福岡を代表している樹種と感じられる
- ・ 全面的からではなくスポットずつ整備を行ってはどうか（目立つところから）
- ・ 里山保全のグループがあるため、活動情報も調べ、既存の緑、里山としての魅力のある緑の管理とはどんなものか再度確認する

■（バラ園と関連し）リッチな場所をリッチな雰囲気にする

- ・ （ガーデンとしての）立体的に雰囲気づくり
- ・ バラ園では屋根の配置、朝食サービスなどを含めて雰囲気づくり
- ・ 展望台あたりでも十分つくれるため、植物園らしさのあるリッチな空間があっても良い

■（風景の見せ方）北を見せる（南をサブとして）

- ・ 見せ方とテーマ、ストーリーとして展開することがつながっていくといいのでは
- ・ 入口での情報を受けとり、ストーリーを拾いながら園内に入ってもらう
- ・ 見え方としてはアーティスティックなもの、手作り感などが見えていくと良い
- ・ 新しい植物園構成図として受け取りができる

④令和4年度 動植物園経営戦略の検討

動植物園は、「動植物園再生基本計画」に基づきリニューアルを図ってきたが、近年の動物福祉の高まりやアフターコロナのニューノーマル、一人一花運動の始動など動植物園を取り巻く社会情勢や環境に大きな変化が生じている。また、市の財政状況が厳しい中、公共施設としての経営の健全化も求められている。

このため、第2期整備に向けた「動植物園再生基本計画」の修正に先立ち、動植物園の経営資源の見直しと財政の健全化に向けた方策を示す経営戦略の検討を行った。

福岡市動植物園 経営戦略目標

福岡市動植物園NEXT ～動植物園で多種多様な関係性を共創する～

- ① **福岡市動植物園の価値を捉え直し**、福岡市動植物園の「体験価値」「サードプレイス」「コミュニティディベロップメント」の機能を発揮して、市民・企業等と多様な関わり方を共に作り上げていくことで、**来園者の満足度・期待感を高め、来園者の増加を図る。**
- ② より効果的な運営体制・運営手法により、**合理的な運営収支バランスを追求・実現**しながら、動植物園に関係するすべての人々のウェルビーイングに寄与する。

(2) 一人一花運動の拠点としての方向性

①一人一花運動の拠点機能強化の考え方

○一人一花運動とは

市民・企業・行政一人ひとりが、公園や歩道、会社、自宅など、福岡市のありとあらゆる場所での花づくりを通じて、人のつながりや心を豊かにし、まちの魅力や価値を高める、花によるまちづくりを目指す取り組みで、この運動により目指すものは「共創のまちづくり」であり、そのツールが花である。

○一人一花運動の拠点としての植物園の役割

「動植物園再生計画」をさらに推進するとともに、「花による共創のまちづくり」を定着させるために、一人一花運動の拠点である植物園が持つポテンシャルを最大限に活用した取り組みが必要であり、重点的に強化する機能はP1に記載したとおりである。

この機能強化より植物園を供給源・発信源とし、「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」の3要素が好循環する持続可能な仕組みの構築が可能となる。この仕組みは、ハード面、ソフト面の要素が必要であり、ハードの中心が植物園リニューアル、ソフトの中心が一人一花「まち・ひと・しごと」づくりプロジェクトのコンテンツである。

○これまでの取り組み

- ・一人一花運動の拠点機能強化の核となるボタニカルライフスクエアを令和5年3月に開設し、花や緑に関する講座やイベントの開催に加え、夜間の利用も可能としたことにより、これまで植物園を訪れたことがない多様な方々が利用される機会なども増え、幅広い活用による新たな交流や発信が生まれた。
- ・市内の3つのガーデンコンテストの優秀者が集い、ガーデン技術を競う一人一花フラワーガーデンチャンピオンシップの開催や、一人一花アンバサダーによるミニチュアガーデン講座やステップアップ講座を開催し、花によるまち・ひと・しごとづくりの好循環を高めていく仕組みに取り組んだ。
- ・その他にも、植物園に来園した人がワクワクするようなコンテンツ等の企画として植物名板の改修検討、宿根草を中心とした花壇の維持管理を通じて人材育成を行う市民参加型プロジェクトの実施など、拠点性を高める取り組みを実施した。

○今後の取り組みの方向性

①来園者の期待感・満足度を高める要素

- ・1年を通して行きたくなる花の映えスポットや視点場を創出
- ・来てよかったと思える緑の中での飲食の場を創出
- ・欲しいものが買えたと思える多様な植物やグッズが販売されている

②リニューアル整備に組み込む要素

- ・入園した瞬間に息をのむようなランドスケープが広がる
- ・Bスクや展望台、温室などへ導き、気持ちを高める「参道」的要素がある
- ・緑のある風景を感じられる視点場がある
- ・園内のコンテンツがバラバラに配置されるのではなく、繋がりやストーリーをもたせる

②一人一花運動の拠点として植物園を目指す姿

○一人一花運動を始めたくなるきっかけづくり

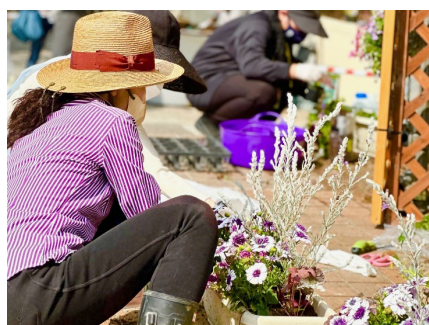
▼B スクを中心として、花・緑に限らない様々な講座やイベントに参加する中で、360°植物に囲まれたロケーションで花・緑のある生活の良さを実感する



▼遊具等を配した子どもを引き付ける空間などで遊ぶ中で、子どもも大人も花や緑の良さを実感する



▼園内で生き生きと活動するボランティアなどの姿を見ることができる



○様々な主体が交流できる共創の場づくり

▼B スクや花の祭典の会場となる広場などを中心に、ガーデンビジネスに関わる多様な主体が交流、表現する場がある



▼ガーデンビジネスに限らず、コンダクター企画など植物園内で生まれる様々な主体の交流が植物園のみならず「まち」に広がるきっかけとなる



▼植物園で活動することが市民や企業にとって SDG s や Well-being につながるという価値を持つ場となる



○一人一花運動を担うガーデナーとしての人材育成や活躍の場づくり

▼様々な分野のガーデナーを育成する場がある

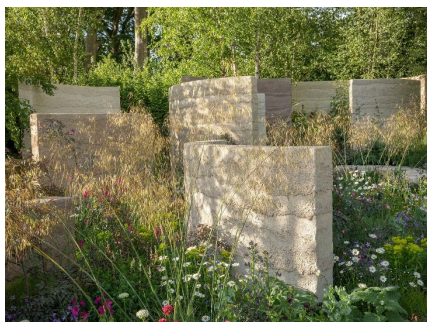


▼育った人材が植物園内のみならず、まちなかで活躍する仕組みをつくる

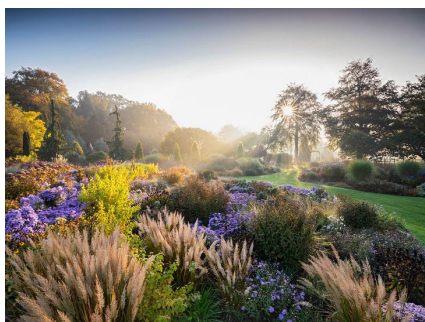


○誰もが訪れたいくなるようなワクワク感の向上

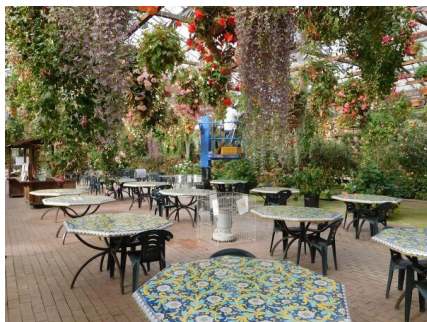
▼回遊することが一つのショーとなるようなエリアごと、季節ごとの変化がある



▼観光誌の表紙になるような、入園した瞬間にハッととなる花修景やシンボリックな映えスポットがある



▼思い出となる花・緑のある空間での飲食やグッズの購入など来園者の満足度が向上する



(3) 動植物園再生事業の修正に向けた検討の方向性

ここでは、計画の位置づけや施設・管理運営面、周辺及び植物園内の現況、一人一花運動の拠点としての機能を踏まえ、「福岡市動植物園再生基本計画」の修正を進めるにあたって、検討が必要と考える項目について示す。

① Enjoyment 驚き、楽しみ、学び、活動できる動植物園からみた課題

(驚き・感動・発見・楽しさ・よろこびをもたらす展示運営、環境教育)

●感動をもたらす展示ストーリーに沿って回遊できる動線の演出

福岡市植物園ならではの展示ストーリーの設定と連動した、わかりやすく園内をめぐることができる回遊動線の演出が求められている。

●環境教育、学び、活動の場となる施設の充実

動植物園を含む南公園一帯は、豊かな緑の自然環境に身近に親しむことができる貴重な空間であり、こうしたメリットを最大限活かした環境教育、学び活動の場となる機会や場を提供していく必要がある。

●一人一花運動の拠点としてのイベントや利用プログラムの充実

誰もが訪れたくなるようなワクワク感の向上につながるイベントや利用プログラムなど、植物園の特性を活かしながら、利用者のニーズを的確に捉えた企画の充実が求められている。

●早朝や夜間利用も含めた植物園ならではの魅力の向上

これまで行われてきた早朝や夜間のイベントの実績をいかして、従来の開園時間外でも季節の花々や植物生態の魅力を感じることができるようなソフト(企画)とハード(施設整備)が求められる。

●花・緑のイベントを実施できる広場空間の確保

動植物園内では、イベントを実施する際に場所や面積の制約があり、大規模な集客イベントを実施し難い状況にある。豊かな花と緑に囲まれた特徴をいかして、大規模なイベントを実施することができる機能をもった広場空間の確保が求められる。

●公共交通機関との連携、植物園へのアプローチのしやすさの向上

今後、より多くの市民や来訪者に親しまれる植物園としていくためには、公共交通機関と連携したアクセス環境の改善が求められる。

地下鉄桜坂駅から南公園内を通してアクセスするルートや、バス利用者の多い動物園入口広場から直接アクセスするルートなど楽しみ、期待感を高めながら植物園に至るルートを具体的に検討する必要がある。

② Originality 動物と植物が一体となった空間づくりと運営からみた課題

(動植物園の融合、動植物の本来あるべき姿、生態的つながりの表現)

●動植物園としての魅力の強化と、両園のつながりの強化

「動植物園」であることの特徴や魅力を再認識し、向上させる必要がある。植物園来園者の 7 割が動物園からアクセスしている現状に対して、動物園と植物園をつなぐ園路が脆弱であることから、「動植物園」ならではの魅力を満喫できる場づくりと、両園をわかりやすく行き来できる園路の拡充が求められる。

●緑の骨格「中央緑地帯」としての風景演出

来園者にとって、福岡の都市がまるで緑豊かな公園の中にあるような雰囲気を感じられるよう、緑の骨格「中央緑地帯」の中核としての位置づけにふさわしい風景の創出が求められる。

●高台にある特徴を活かした眺望を楽しむ場の確保

古来より大休山として親しまれた眺望景観の視点場としての特性をいかして、来園者が様々な角度や方向への眺めを楽しむと同時に、美しい自然とふれあうことができる多様な場づくりが求められる。

●サクラや紅葉など季節ごとの風景演出

ダイナミックな風景を演出するサクラや新緑、紅葉に加え、アジサイやサルスベリなど季節を感じさせる樹木やスイセン、クリスマスローズなど冬枯れの中で際立つ草花など、いつ来ても感動がある植物園ならではの風景の創出が求められている。

●景観的つながり、成長した樹木に覆われた緑地環境の活用と管理

動植物園内の空間をより一体的に有効に活用するためには、南公園から連なる地形や緑のボリュームを感じられるとともに、植物園内の景観的つながりと樹木の整理などによる見通しの確保が求められる。

樹勢や樹形、景観や生物多様性など、緑の機能面と貴重な樹種の保存、活用面からの整理を行ったうえで、樹木を適正に管理するプログラムの作成が求められる。

③ Locality 福岡市の地域性や南公園の特性を生かしたテーマ設定からみた課題 (アジアを意識したテーマ設定、高低差のある地形など福岡市らしさを活かす)

●鑑賞型から参加型へ、ボランティアからプロフェッショナルを育む仕組みの充実

花と緑に関わる市民の裾野を広げる講座の充実やボランティアからプロガーデナーを養成するプロジェクトの実施など、参加型の取り組みをさらに発展させていく運営プログラムと実践の場の創出が求められている。

●国際的な交流促進に役立つ場の創出

アジアの交流拠点都市を目指す福岡市の植物園として、国内外から訪れる来園者を意識した空間づくりとグローバルに活躍する人材育成の仕組みや活躍の場の創出が求められている。

●バックヤードの充実

ボランティアやガーデナー、学校や企業など多種多様な人材が活動、交流し、そこから取り組みが広がっていくためのバックヤードガーデン、バックヤードベースが求められている。

●福岡市型「花による共創のまちづくり」の推進

福岡市が先進的に展開する一人一花運動を推進するために、市民や企業・団体等が活躍できる実践の場の創出が求められている。

多様な主体が活動・交流することで、その取り組みが街なかに広がる拠点としての役割を担う必要がある。

●公民連携による民間活力の導入

植物園内における飲食施設や売店等の既存施設との連携向上はもとより、都心部に近く、高低差や豊かな樹林地などの敷地特性を活かした便益施設の導入が求められる。民間のアイデアや資金を活用することで、より植物園のポテンシャルが発揮されるとともに民間企業にとっては社会的イメージの向上や収益獲得につながる。

3. 整備方針

(1) 空間構成の考え方

「動植物園再生基本計画」の3つの方向性「Enjoyment」「Originality」「Locality」と一人一花運動の拠点として目指すべき4つの方向性「きっかけづくり」「共創の場づくり」「活躍の場づくり」「ワクワク感の向上」の両方を実現していくために、植物園において3つの機能を持つ場を展開する。

Enjoyment きっかけ 花緑のイベントや音楽フェスなど緑の中で「表現したい」「参加したい」気持ちを満たす場がある	Enjoyment Originality ワクワク 誰もが期待をもって訪れ、もう一度足を運びたくなるような、シンボリックなフォトスポットがある	Enjoyment 共創の場 市民の Well-being や企業価値の向上につながるような多彩な活用ができる場がある
Enjoyment Originality ワクワク エリアごと季節ごとに植物を主役とした風景の移り変わりを感じられる空間がある	Originality ワクワク 40 年が経過した風格ある樹木や生物多様性に満ちた湿地など豊かな自然を感じられる空間がある	Enjoyment Originality ワクワク 高台からの眺望を活かした多様な視点場など、植物園ならではの憩いの空間がある
Locality きっかけ 活躍の場 ボランティアやガーデナーが学び、実践し、活躍する場がある	Locality 共創の場 B スクを中心に花・緑に留まらない様々な主体が活動し、交流が生まれる場がある	Locality 活躍の場 共創の場 植物園で生まれた共創の取り組みが、植物園のみならず街なかに広がるきっかけとなる場がある

A. 誰もが憧れる表現と交流の場

B. 植物園特有の緑の風景を楽しむ場

C. 多様な参加やビジネスにつながる実践の場

(2) エリア構成

(1) の 3 つの場の機能を複合的に含むエリアの中に、見どころとなるシンボリックなスポットや眺望を活かしたくつろぎの空間、市民や企業が共創する実践のフィールドを配置する。

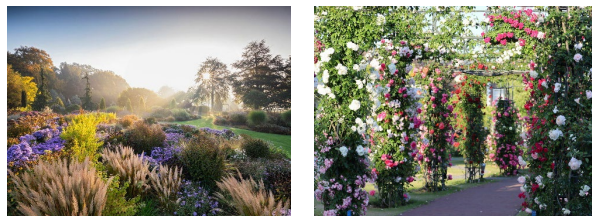
○入口広場

植物園の目玉となるようなシンボリックな空間



○エントランスガーデン

バラと宿根草等の草花を組み合わせた一年中楽しめる新たな目玉となるガーデン



○水生植物園

より水辺の風景（水生植物や鳥や虫など水辺のいきものを含む生態系）に親しめる空間



○針葉樹園&チャレンジガーデン

人材育成の実践およびチャレンジの空間



○Bスク&芝生広場

花・緑のあるライフスタイルの良さを感じてもらうBスクと芝生広場が一体となった活用空間



○芝生広場

遠足など大人数の利用にも対応できる市民憩いの空間（遊具の導入）



○紅葉樹園

新緑や紅葉、一面に咲くスイセンやヒガンバナなど季節を感じられる空間



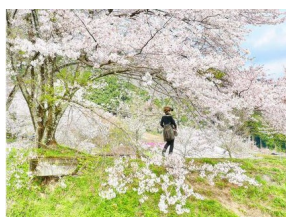
○共創の広場

ガーデンビジネスに限らない多様な関係性が生まれ、365日利用される汎用性のある空間



○花見広場

動植物と植物園の入口をつなぎ、地域の人々の憩いの場ともなる空間



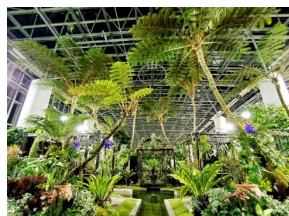
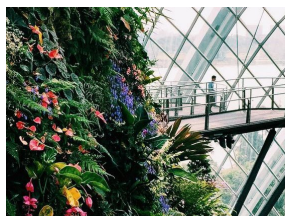
○花木園

約43種の桜の開花リレーなどが楽しめる春の見どころとなる空間



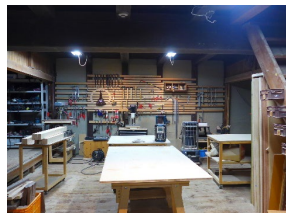
○温室

季節を問わず楽しめる圧倒的な熱帯植物の空間

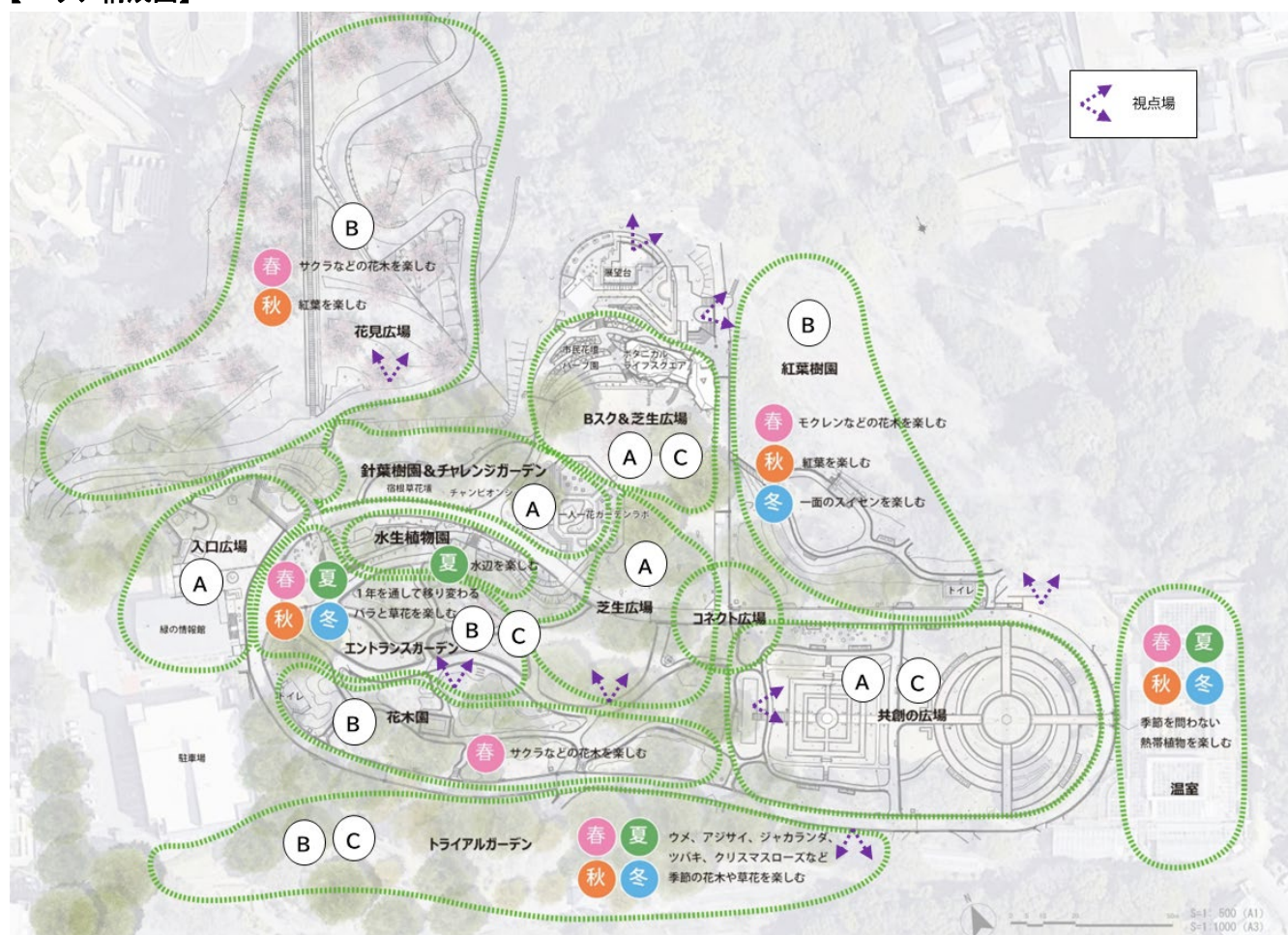


○トライアルガーデン

市民や企業など多様な主体の活動の拠点となる実践と交流の場



【エリア構成図】



(3) 動線計画

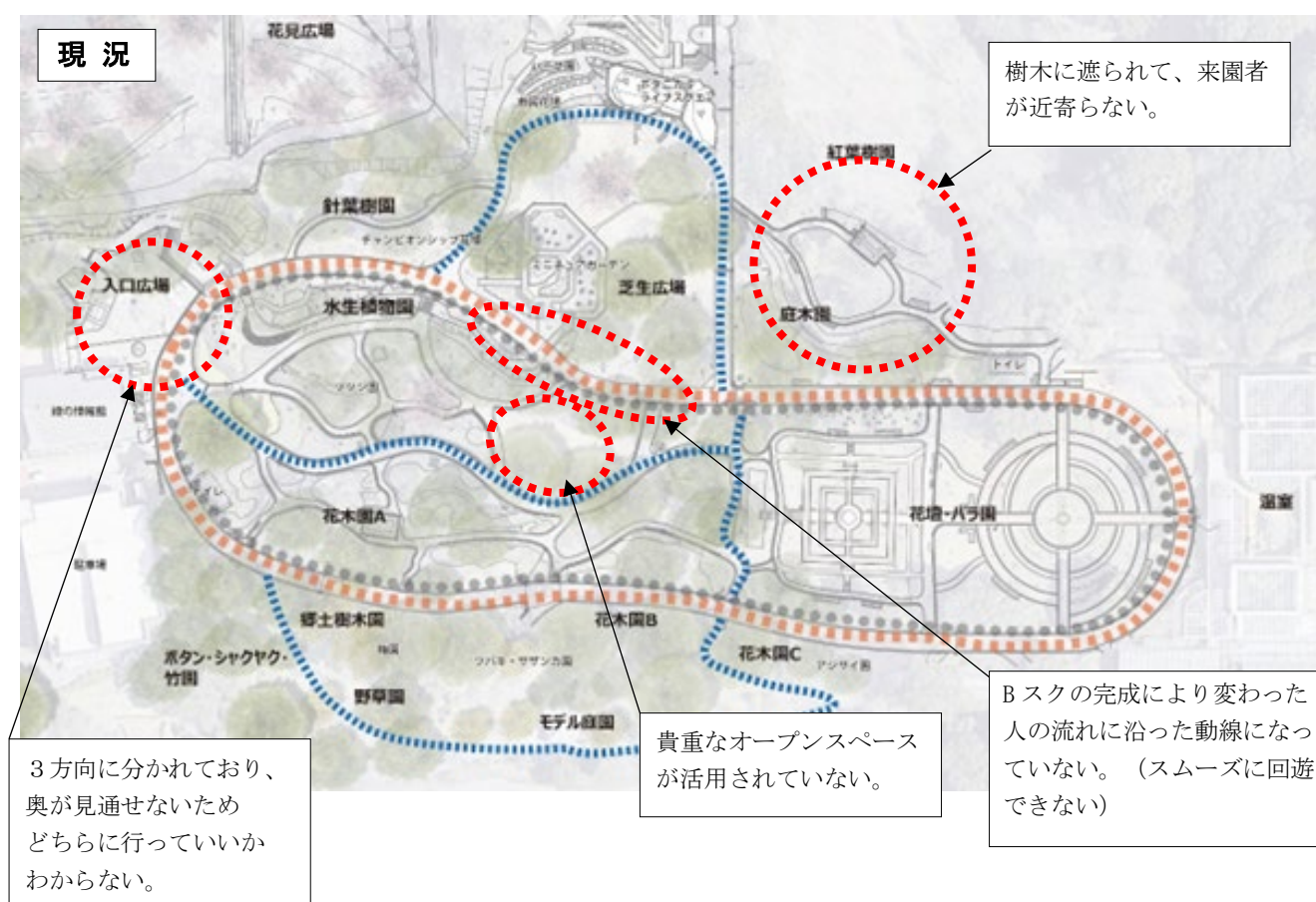
現在の植物園のメイン動線は、園内を細長く周回する管理用動線を兼ねた単調なイメージがあり、来園者にとって園内各エリアの魅力に導かれるような回遊性が確保されているとはいえない。

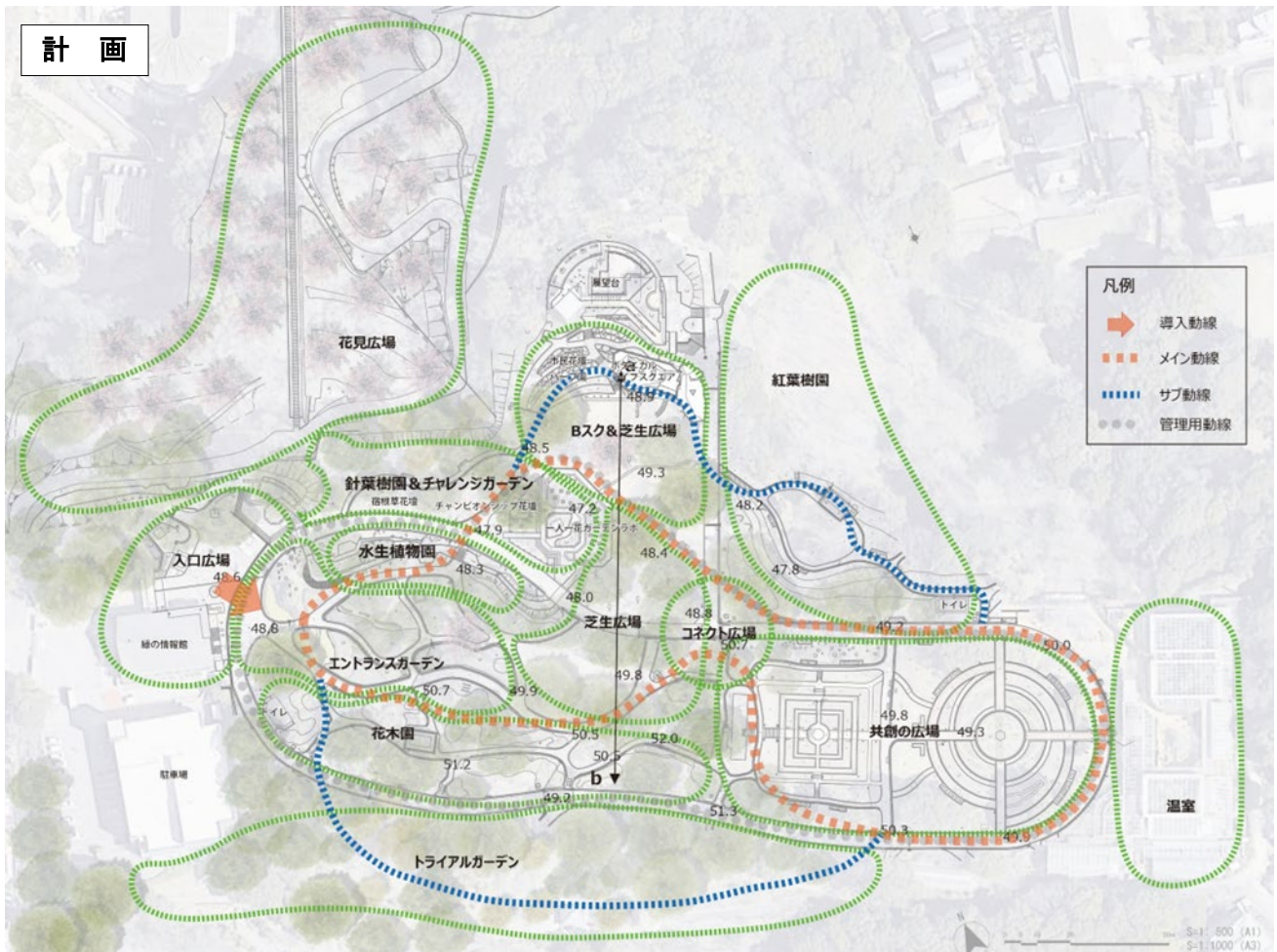
そこで、各エリアの見どころへ積極的に誘導し、より円滑な来園者の移動に考慮するとともに、メイン動線・サブ動線・管理用動線の機能を明確にすることを基本に、以下に示す具体的な改善を図ることとする。

○動線の考え方

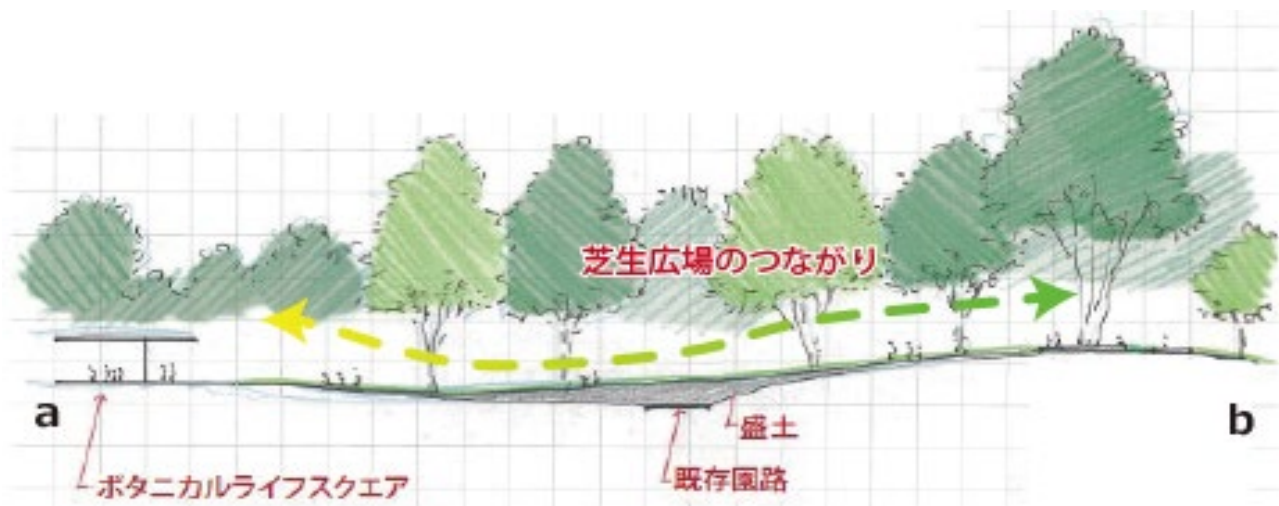
- ・新たな目玉となるエントランスガーデンに引き込み、植物園入口（西側）から温室（東側）までの見通しを感じさせる**導入動線**
- ・来園者を各エリアにスムーズに誘導し、それぞれの見どころを楽しみながら回遊できる**メイン動線**機能の確保
- ・現況の地形や樹木を活かし、各視点場からの眺望や風景の移り変わりを楽しめる**サブ動線**

○動線のイメージ（現況と計画）





○芝生広場付近の断面構成イメージ



(4) 景観構成

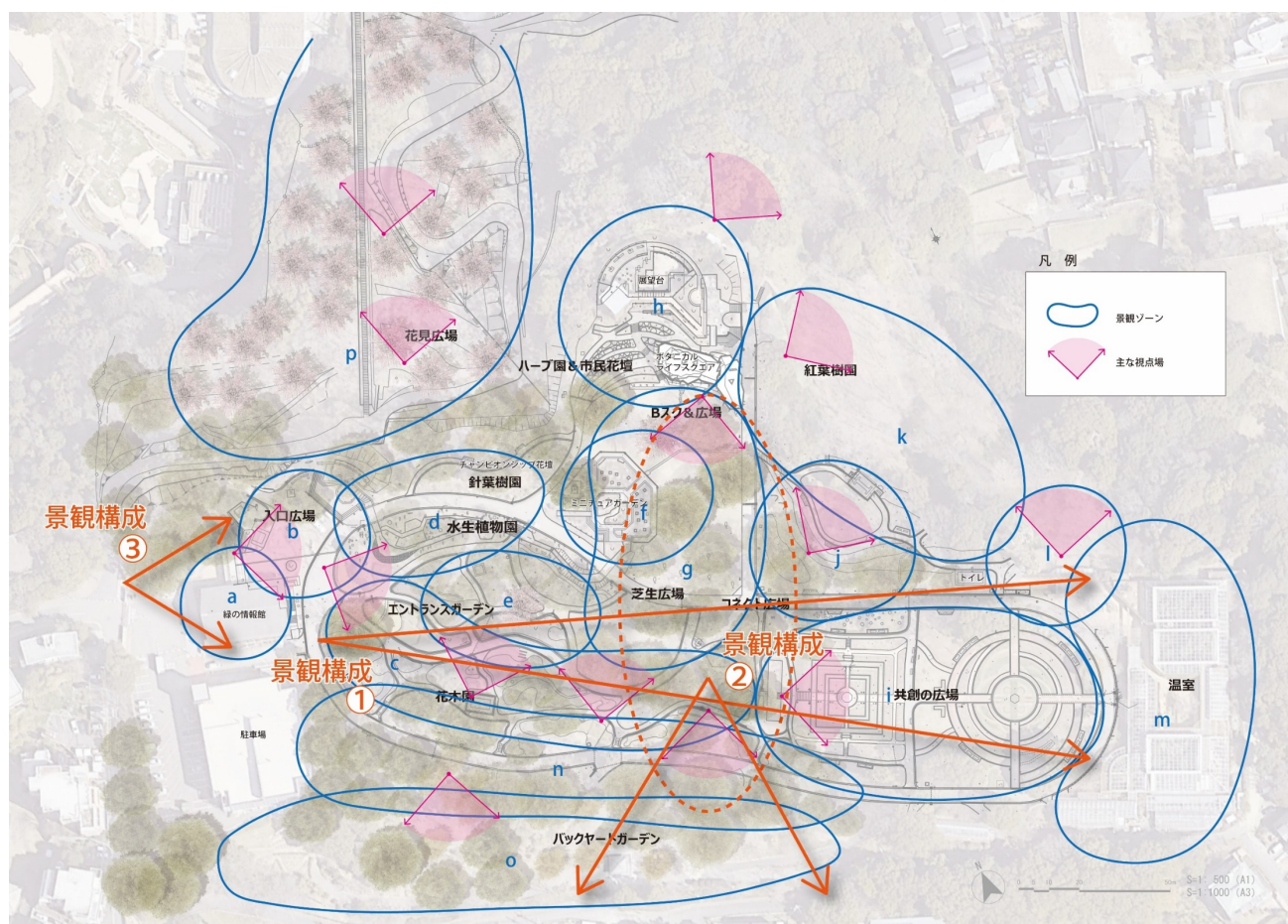
現在の植物園内の景観は、開園以来成長してきた高木等によって木陰が広がり風格を増してきている反面、うっそうとして見通しや眺望を遮っている場所もみられ、植物園らしい「めぐる楽しみ」が十分確保されているとはいいいがたい状況にある。

そこで、前項の動線計画と連動して、各エリアの見どころへスムーズに誘導し、来園者が美しい緑の中での行動・活動を満喫できるよう、奥行き感、ひろがり感、ワクワク感を演出していくことを基本に、以下に示す具体的な改善を図ることとする。

景観構成①：入口付近から奥（温室付近）までを見渡せる「奥行き感」を演出する

景観構成②：芝生広場を中心に緑豊かな近景・中景・遠景が展開する「ひろがり感」を演出する

景観構成③：各エリアに視点場があり、回遊したくなる「ワクワク感」を演出する



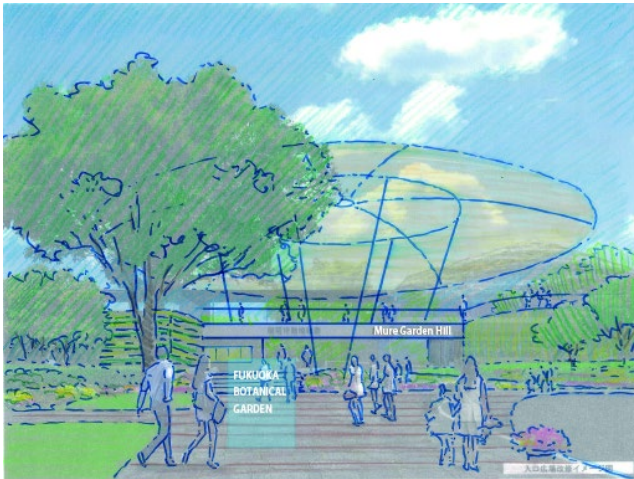
○各エリアの景観構成

- a. 緑の情報館：
 - b. 入口広場：
- } 植物園へ入るワクワク感や期待感を生むシンボリックな景観の演出
- c. 花木園：エントランスガーデンおよび水生植物園、針葉樹園を望む、佇み空間の創出
 - d. 水生植物園：水の流れや水生植物に身近に触れ合える親水性のある景観
 - e. エントランスガーデン：植物園に入って最初の見どころとなる、花の景観を創出
 - f. Bスク&広場：Bスクの前庭空間として、芝生広場までつながり、見通せる景観
 - g. 芝生広場：主園路による分断を解消し、広い木もれびのもとに連なる休憩と募いの場の創出
 - h. 展望休憩施設：周辺樹木を整理し、博多、天神を見渡せる見どころとなる視点場の創出
 - i. 共創の広場：温室を背景に周辺の豊かな緑と一体となった見通しの良いオープンな景観を創出
 - j. 庭木園：周辺樹木を整理し、紅葉樹園および市内を眺望できる景観
 - k. 紅葉樹園：斜面を生かし、市内を眺望できる視点場と佇み空間の創出
 - l. ギャラリー室デッキ：樹木等の整理をして、既設デッキからの眺望を確保
 - m. 温室：共創の広場の背景となる、花・みどりによる景観の創出
 - n. 南側園路：縦軸に風が通り抜け、南側の油山を樹木越しに眺望できる景観の創出
 - . バックヤードガーデン：斜面の特徴を生かし、ガーデンニング技術を磨く場としての変化に富んだ景観の創出
 - p. 花見広場：動植物園双方の入口相互のつながりを重視し、四季を通じて楽しめる佇み空間の創出

(5) 整備イメージ

各エリアの整備イメージや、利用シーンのイメージを以下に示す。

a. 緑の情報館 b. 入口広場



・入口広場のイメージ



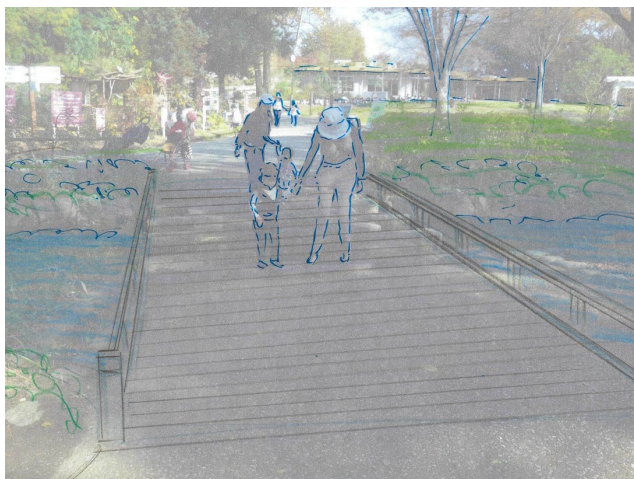
・壁泉の修景イメージ

c. 花木園



・民間活用のイメージ (左、右)

d. 水生植物園



・水生植物園の橋のイメージ



・湿性生態園としてのせせらぎイメージ

e. エントランスガーデン



・エントランスガーデンのイメージ

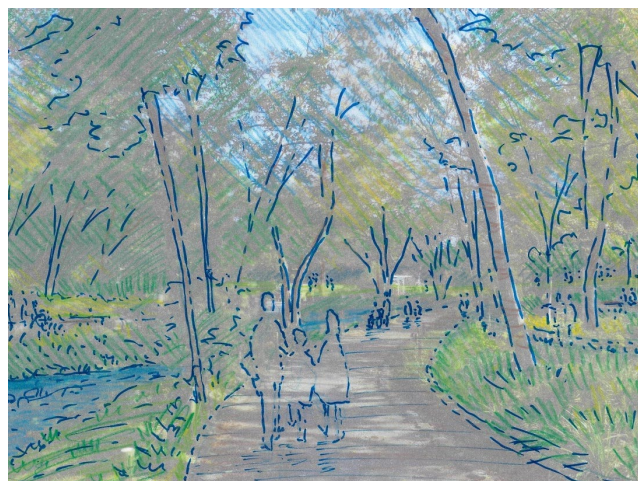


・入口広場からエントランスガーデンのイメージ

f. Bスク&広場 g. 芝生広場



・芝生広場のイメージ

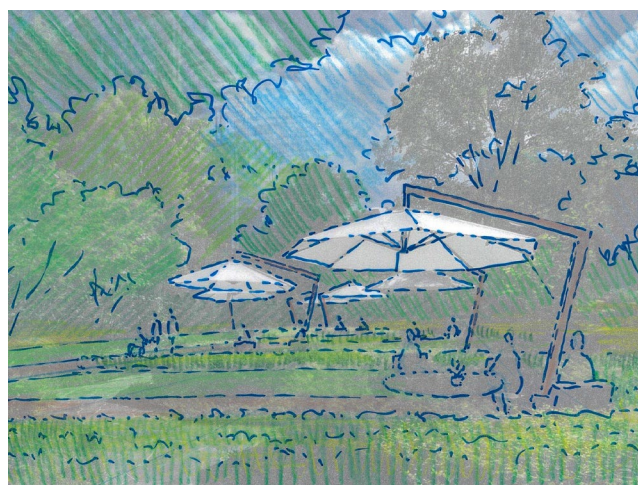


・園路のイメージ

i. 共創の広場

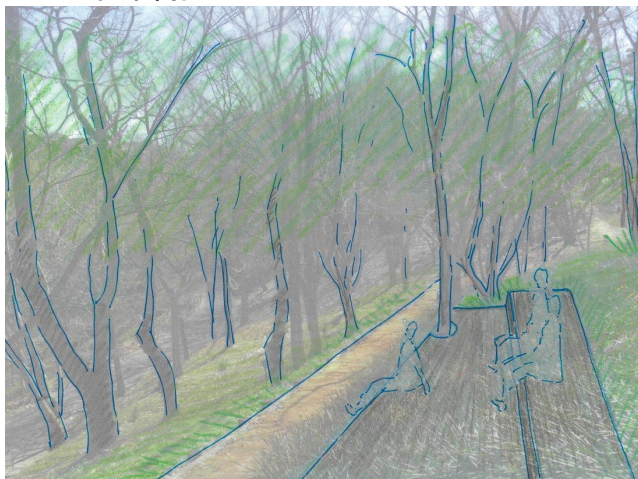


・だんだんテラスのイメージ



・平常利用のイメージ

k. 紅葉樹園



・デッキテラスのイメージ

l. ギャラリー室デッキ

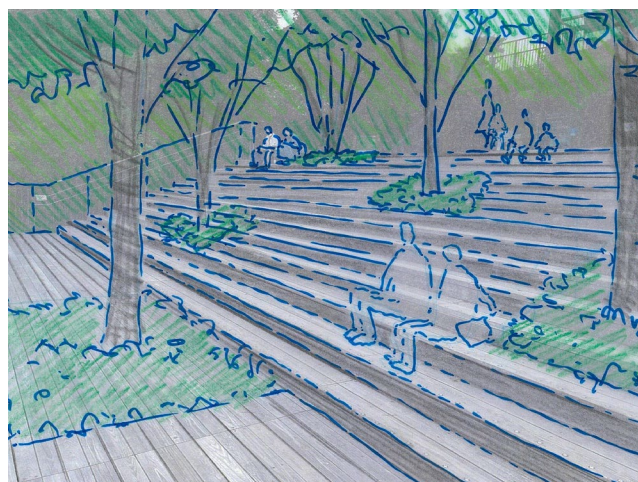


・デッキテラスのイメージ

o. バックヤードガーデン

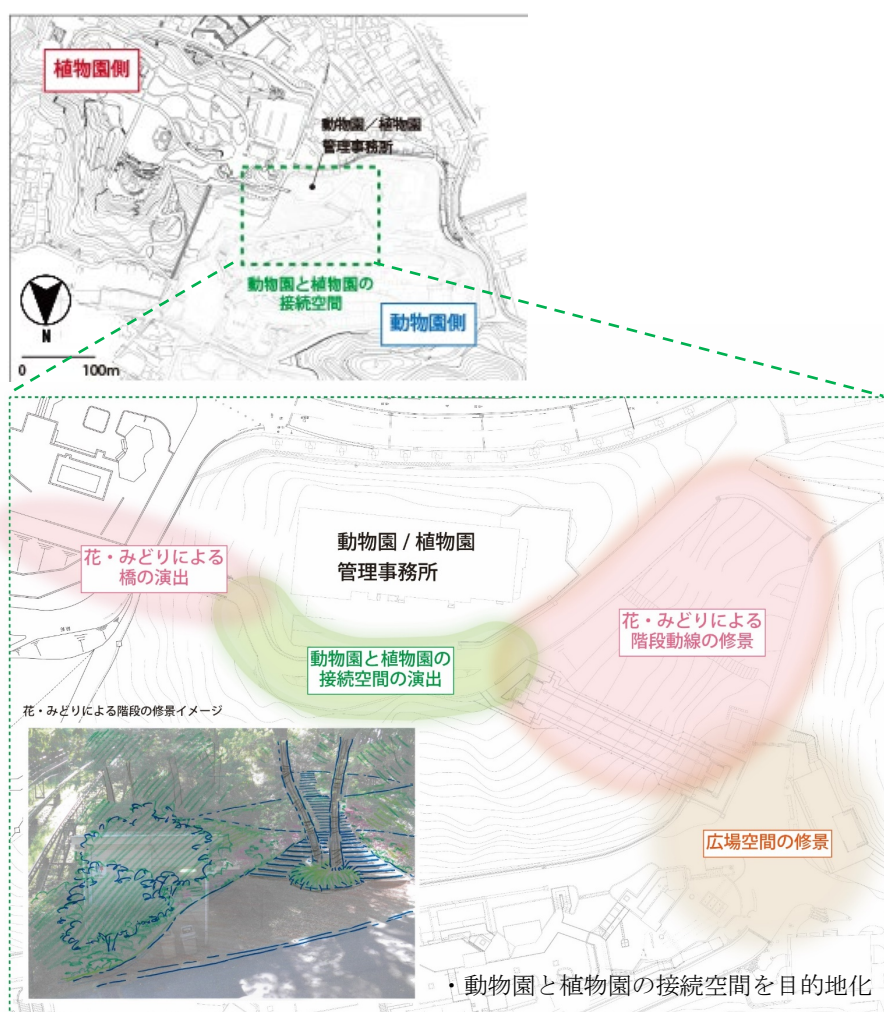


・バックヤードベース（建物小屋など）のイメージ



・階段テラスのイメージ

○動物園と植物園の接続空間



【参考】基本計画図（イメージ）



(6) 整備スケジュール

令和 20 年度までの 15 年を大きく短期、中期、長期の段階に分けてそれぞれ広場整備を進める。
また、南側トライアルガーデンについては短期～長期にわたって順次整備を進める。

短期

(R6～R8 年度末)

- ・ 入口広場（一部） ・ 芝生広場
- ・ エントランスガーデン ・ 共創の広場 ・ 水生植物園

中期

(R9～R14 年度末)

- ・ 花見広場 ・ 紅葉樹園

長期

(R15～R20 年度末)

- ・ 緑の情報館 ・ 温室改修
- ・ 入口広場（一部）

・ トライアル
ガーデン

・ バックヤード
ベース

4. 管理運営方針

(1) 管理運営の考え方

一人一花運動の拠点施設として、市民や企業など様々な主体が関わりながら、「我々の植物園」と感じられる管理運営を目指す。

○持続可能な管理手法

一人一花運動の「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」の一環として、福岡のガーデナーや市民ボランティアを育てる拠点とするとともに、企業等のビジネスの場として機能するなど、共創の取り組みにより高質な管理が持続的に可能となる仕組みづくりについて検討していく。

① ボランティアの活用

植物園では、ハーブボランティアやハンギングバスケットボランティアなど 11 団体が活動しており、さらなる活用を目指す。

② 人材育成

宿根草を主体としたガーデンの制作・管理ができる人材を育成する「ねづくプロジェクト」や世界的なガーデンデザイナーから庭づくりの初歩を学べるミニチュアガーデン講座などを実施しており、今後バラに特化したガーデナーの育成など、一人一花運動を担う人材の育成を進めていく。

③ 企業協賛

特定エリアの無償管理の実施やトライアルガーデンの活用など、植物園で活動することが企業価値や利益の向上につながるような仕組みを検討していく。

○民間活力の導入

より植物園のポテンシャルが発揮されつつ機能が高まるような飲食施設の導入やイベント誘致の取り組みを進める上で、企業等が参画しやすい仕組みづくりについて検討していく。